

Ⅲ. 委員会活動

運営会議

理事長、学長の諮問した事項や教授会で審議する事項および重要事項をあらかじめ各専攻、専攻科、研究科で幅広く検討、調整するために、平成 26 年度より副学長を議長とする運営会議を置いている。運営会議で審議する具体的な事項及び重要事項は、中期計画・年度計画、自己点検・評価、教学、入学試験の方針に係る事項、国際交流や各委員会における全学的な課題に関する事項、各専攻（科）の運営に関する事項などである。構成メンバーは、副学長、研究科長、学部長、学科長、専攻主任、専攻科主任、基礎・共通科目主任、事務局長で組織し、会議については、月 1 回（毎月第 4 火曜日）を定例の運営会議として開催している。平成 27 年度は、臨時運営会議を含めて 14 回開催した。

主な運営会議審議事項

平成 27 年度 第 1 回 OHSU 運営会議

日 時) 平成 27 年 4 月 28 日 (火) 13:00~17:00 場 所) 1 号館 小会議室

1. 中期展望及び期間中に於ける取組みについて
2. カリキュラム改訂について
3. 自己点検・評価について

平成 27 年度 第 2 回 OHSU 運営会議

日 時) 平成 27 年 5 月 26 日 (火) 13:00~16:30 場 所) 1 号館 小会議室

1. 2018 年問題への対応及び 3 ヶ年計画の策定について
2. 臨床教育支援員について
3. 中期展望及び期間中に於ける取組みについて
4. 自己点検・評価について
5. 国家試験対策について

平成 27 年度 第 3 回 OHSU 運営会議

日 時) 平成 26 年 5 月 27 日 (火) 13:00~15:30 場 所) 1 号館 小会議室

1. 中期展望及び期間中に於ける取組みについて
2. CAP 制のあり方について
3. SD 実施計画について
4. GPA 制度の活用について
5. 自己点検・評価について
6. 入試関係について

平成 27 年度 第 4 回 OHSU 運営会議

日 時) 平成 27 年 7 月 28 日 (火) 13:00~16:00 場 所) 1 号館 小会議室

1. 中期展望及び期間中に於ける取組みについて
2. CAP 制のあり方について

3. SD 実施計画について
4. GPA 制度の活用について
5. 自己点検・評価について
6. 国際交流について

平成 27 年度 第 5 回 OHSU 運営会議

日 時) 平成 27 年 8 月 25 日 (火) 12 : 15 ~ 13 : 00 場 所) 1 号館 小会議室

1. 本年度の AO 入試問題について

平成 27 年度 第 6 回 OHSU 運営会議

日 時) 平成 27 年 9 月 29 日 (火) 12 : 15 ~ 13 : 00 場 所) 1 号館 小会議室

1. CAP 制の導入について
2. 入学後の基礎学力向上対策
3. 臨床教育支援員及び広報支援員について
4. アクティブラーニングの検討
5. 履修系統図の検討

平成 27 年度 第 7 回 OHSU 運営会議

日 時) 平成 27 年 10 月 20 日 (火) 13 : 30 ~ 15 : 00 場 所) 1 号館 小会議室

1. CAP 制の導入について
2. 入学後の基礎学力向上対策
3. GPA 制度の活用について
4. アクティブラーニングの検討
5. 履修系統図の検討

平成 27 年度 第 8 回 臨時 OHSU 運営会議

日 時) 平成 27 年 11 月 24 日 (火) 13 : 30 ~ 17 : 30 場 所) 1 号館 小会議室

1. 人事案件
2. CAP 制の導入について
3. 入学後の基礎学力向上対策
4. GPA 制度の活用について
5. アクティブラーニングの検討
6. 履修系統図の検討

平成 27 年度 第 9 回 OHSU 運営会議

日 時) 平成 27 年 12 月 1 日 (火) 15 : 00 ~ 15 : 30 場 所) 1 号館 小会議室

1. 人事案件

平成 27 年度 第 10 回 OHSU 運営会議

日 時) 平成 27 年 12 月 22 日 (火) 13 : 00 ~ 16 : 30 場 所) 1 号館 小会議室

1. 日本高等教育評価機構評価報告書案について
2. 保健管理室のあり方について

平成 27 年度 第 11 回 OHSU 運営会議

日 時) 平成 28 年 1 月 7 日 (火) 14 : 40 ~ 16 : 00 場 所) 1 号館 小会議室

1. 日本高等教育評価機構評価報告書案について

平成 27 年度 第 12 回 OHSU 運営会議

日 時) 平成 28 年 1 月 26 日 (火) 13 : 00 ~ 17 : 00 場 所) 1 号館 小会議室

1. 自己点検・評価結果の今後の対応について
2. 私立大学等総合改革支援事業について

平成 27 年度 第 13 回 OHSU 運営会議

日 時) 平成 28 年 2 月 23 日 (火) 13 : 00 ~ 16 : 30 場 所) 1 号館 小会議室

1. 自己点検・評価結果の今後の対応について
2. 私立大学等総合改革支援事業について

平成 27 年度 第 14 回 OHSU 運営会議

日 時) 平成 28 年 3 月 22 日 (火) 13 : 00 ~ 16 : 30 場 所) 1 号館 小会議室

1. 自己点検・評価結果の今後の対応について
2. 私立大学等総合改革支援事業について

総括

1. 日本高等教育評価機構の評価報告書案を受けた対応を実施した。
2. 基礎学力向上対策の方針を定めた。
3. カリキュラム改訂を実施した。
4. CAP 制導入を定めた。
5. 履修系統図を作成した。
6. アクティブラーニング対応科目を設定した。
7. GPA 制度の活用を定めた。
8. SD 実施計画を定めた。
9. 臨床教育支援員、広報支援員制度を定めた。

教学委員会

今年度の委員会での報告および審議事項は表のとおりである。教務関係では、開講科目、定期試験に係ること、入学前後のオリエンテーションと教育に係ること、保護者との連携に関わることを担当し、学生関係では、自治会活動の後援と学生アンケートの実施及びフィードバックを担当している。今年度も例年通り月1回の定例委員会と年度初めに臨時委員会を開催した。特記事項は、①留年生対象の聴講生の取り扱いを定めたこと、②学習機会を増やし留年生を出さないための学期末テストのあり方を検討し、運用に至ったこと、③CAP制度の決定、④入学後のリメディアル教育の実施の準備や⑤学生指導のために業者の適正と能力検査を導入したことである。

回	日時	報告及び審議事項 教務関係	報告及び審議事項 学生関係
臨時	4月1日 11:40-12:00	【審議事項】 聴講生の取り扱いについて	
第1回	4月7日 13:00-14:30	【報告事項】 卒業研究 入学前オリエンテーション 入学式後の保護者会 【審議事項】 中期展望について 学期末試験の実施について 非常勤講師対応について	【報告事項】 自治会 新入生歓迎会 会計関係 【審議事項】 学生アンケートの実施 自治会役員
第2回	5月12日 13:00-14:30	【報告事項】 入学前教育の結果 学期末試験運用の決定 留年生に対する奨学金廃止 【審議事項】 中期展望について 試験スケジュール	【報告事項】 自治会 役員決定 学生生活指導主務者研修会 【審議事項】 学生アンケートについて
第3回	6月2日 13:00-14:30	【報告事項】 基礎ゼミ AEDとマナー講習会 卒業研究実施許諾分科会日程 非常勤講師へのヒアリング結果 【審議事項】 物理学の講義内容	【報告事項】 自治会 野球観戦と球技大会 滝川小・幼稚園でのボランティア活動 【審議事項】 学生アンケートについて

第4回	7月7日 13:00-14:30	【報告事項】 卒業研究実施許諾分科会 保護者会 基礎ゼミ 【審議事項】 定期試験：時間割，再試験ネット申込み CAP 制度 入学前教育	【報告事項】 自治会 学生アンケート 【審議事項】
第5回	8月4日 13:00-14:30	【報告事項】 定期試験終了 【審議事項】 CAP 制度について 入学後教育について PS-P(適正)，Type-U(能力)の導入 入学前オリエンテーション日程	【報告事項】 自治会 【審議事項】
第6回	9月1日 13:00-14:30	【審議事項】 次年度開講科目 CAP 制度 入学後教育における業者検査の導入 入学前オリエンテーション	【審議事項】 学生アンケート結果 自治会 球技大会 学園祭
第7回	10月6日 13:00-14:30	【報告事項】 CAP 制度 PS-P(適正)，Type-U(能力) 次年度スケジュール・開講科目 4年生集中講義 後期基礎ゼミ 【審議事項】 入学前オリエンテーション シラバスチェック方法	【報告事項】 学生アンケート自由記載結果 自治会 大学祭 スタディツアーへの補助
第8回	11月3日 13:00-14:30	【報告事項】 PS-P(適正)，Type-U(能力)実施 入学前準備教育 【審議事項】 次年度スケジュール，開講科目 基礎ゼミ 中期展望	【報告事項】 学生アンケートへの回答 自治会

		シラバス作成手順 リメディアル教育内容 追再試験ネット申し込み	
第9回	12月1日 13:00-14:30	【報告事項】 追再試験ネット申し込み入学前 備品メールの設置 リメディアル教育 入学前オリエンテーション PS-P(適正), Type-U(能力) 結果 【審議事項】 科目(臨床神経学) 担当者 中期展望 基礎ゼミ	【報告事項】 学生アンケートへの回答 自治会 【審議事項】 自治会活動(OT1年)
第10回	1月12日 13:00-14:30	【報告事項】 リメディアル教育準備状況 論理学開講 入学前・準備教育 【審議事項】 中期展望 新入生・在校生オリ 入学前オリ シラバスチェック 基礎ゼミ 卒業研究実施許諾分科会日程 欠席多数学生の保証人への通知 について	【報告事項】 自治会 新入生歓迎会 奨学金制度の対応 【審議事項】
第11回	2月2日 13:00-14:30	【報告事項】 後期試験実施報告 【審議事項】 中期展望 入学前オリエンテーション シラバスチェック 基礎ゼミ成績判定 リメディアル教育内容 欠席多数学生保証人への通知	【報告事項】 なし 【審議事項】 なし
第12回	3月1日	【報告事項】	【報告事項】

	13:00-14:30	教養教育検討委員会新設 ネットによる再試申し込み確認 【審議事項】 入学前オリエンテーション 基礎ゼミの予定 入学式オリエンテーション チューター管理票 次年度前期は継続実施	自治会行事承認 【審議事項】 なし
--	-------------	--	-------------------------

広報委員会

委員長：今井 公一

委員：柴田雅朗、山田隆人、足立 一、島 雅人、工藤芳幸、境 隆弘、伊禮まり子、
吉松秀典、白神康裕

平成 27 年度の活動にあたっては、出張関係、オープンキャンパス、大学案内、大学院関係、ST 専攻に関する事業に区分けし、個々のリーダーを中心に活動したが、より安定した学生数の確保となるよう取り組んだ。

(1) 出張関係（学外広報活動：ガイダンス、進路室への訪問）

企業ならびに高校から依頼されるガイダンスについて、教員・事務にて役割分担しながらより積極的に取り組んだ。また受験生や入学者のいる実績校、および成績上位校を考慮しながら進路室への訪問なども継続した。高校&会場ガイダンス参加者数（受験対象者の高校 3 年間）は総計 710 名で、昨年実績 432 名の（64%増）であった。

(2) オープンキャンパスの運営

参加者数 10%増加を目標に、実施回数の追加、参加しやすい時間を設定する等の新たな取り組みを行なった。PT・OT 専攻は 10 回開催し、各種説明に加え、模擬授業の実施、祝日月曜日を利用した授業見学会の開催、8 月以降は各時期に応じた入試対策を実施した。参加者数はのべ 590 名 昨年実績 537 名（10%増）であった。ST 専攻科は 12 回開催し、各種説明に加え、模擬講義、現場の声を聴く会を実施した。また、毎週水曜日に夜間説明会を実施した。参加者数はのべ 104 名 昨年実績 74 名（40%増）であった。

(3) 大学案内の作成

本年度は、新たな HP とのリンクも視野に入れ、内容については大枠の構成は継続とし、写真など中身の一部改訂にとどめ更新を行った。

(5) HP について

昨年度より広報委員会本体において HP に関する議案を検討することしたが、大学案内とのリンクを配慮し、運用規定を定めての教職員による修正可能箇所を明確化するなど低コスト化を実現した。また掲載記事はできる限りリアルタイムな記事を掲載し、閲覧者の増加を目標とした。なお、使用頻度の高い携帯版についても検討を行った。

自己点検評価委員会

委員長：井上悟

委員：石倉隆 大根茂夫 足立一 榑千磨 中野なおみ

1、自己点検・評価委員会の開催内容：

・第1回：4月7日（火）過去5年間の本学年報に基づく、自己点検評価書3月末に（年度中）にHP上で公表が完了している。審議事項：平成27年度大学認証評価受審予定の確認と、平成26年度自己点検評価書の最新データ（5月1日現在）への更新の件

・第2回：4月28日（火）平成26年度自己点検評価書の作成工程が決定、①全体の構成チェック（大項目チェック担当者決定）、②不足事項修正（評価判定の留意点チェック、エビデンス提示の適切性）、③大項目基準の自己評価記載

・第3回：6月2日（火）本学担当の評価員（評価員5名+評価機構事務2名 計7名）の決定通知（5月21日付）があった。平成26年度自己点検評価書の6月15日までの全体校正と日本高等教育評価機構（JIHと略す）への郵送締切（6月30日必着）

・第4回：7月7日（火）平成26年度自己点検評価書ならびエビデンス集（データ編・資料編）は、既にJIHへの郵送（6月30日締切）、到着確認済み。

・第5回：9月1日（火）平成27年度大学機関別認証評価用の自己点検評価書ならびエビデンス集（データ編・資料編）を全教職員への配信（学長指示）を確認。今後9/18にJIH事務局より書面質問票が到着し、それに対して10/7迄に回答票を提出する予定の確認。実地調査（H27年10/26（月）～28（水））のタイムスケジュールについて（視察ルート案、授業見学候補等含む）確認。

・第6回：10月6日（火）JIH事務局より書面質問状が9月18日に到着し、回答書の内容作成。以後、10月7日（水）にJIH事務局へ、書面質問の回答書を返信する。10月19日（月）にJIH事務局へ実地調査用資料（当日座席表など）を提出。本学実地調査日：10月26日（月）～28日（水）当日の面談スケジュール、視察タイムテーブル、座席順等について、確認がなされた。

・第7回：11月3日（火）平成27年度大学機関別認証評価：本学実地調査日：平成27年10月26日（月）～28日（水）の面談・質疑が予定通り終了したことの報告があった。今後、12月17日（木）調査報告書案が本学へ送付される予定。

・第8回：12月22日（火）運営会議で、調査報告書案に付された各意見の事実との相違について確認され、4点について意見申立を行うこととなった。今後、平成28年1月12日（火）意見申立の電子メール締切、同13日（水）郵送分締切日。平成27年度大学年報（教育研究活動報告、各専攻・各委員会等活動報告）（2月末〆切）および同じく教育研究活動自己点検評価報告書（3月末〆切）について例年通り依頼することとなった。

・第9回：平成28年2月2日（火）今後の予定について確認した。2月4日（木）評価報告書案が本学到着、2月15日（月）意見申立の電子メール締切、2月16日（火）郵送分締切日、2月19日 JIHにて「意見申し立て審査会」、2月25日 JIHにて「大学評価判定委員会」、3月中旬 評価結果 本学到着

・**第10回**：3月1日（火） 2月4日（木）評価報告書案が本学へ到着、「適合」の結果であった。2月10日学長決裁により、「意見申立なし。」の返答済み。今後、JIHにて、2月25日「大学評価判定委員会」の後、平成28年3月中旬 正式な評価結果到着予定である。

結果が「適合」であったので、次回は7年後の受審。ただし、○改善を要する点（2件）に関して、3年間の間に「改善報告書」を作成し、JIHへ回答する必要がある。

2、平成27年度自己点検・評価委員会の総括：

JIHの認証評価を受審すべく、本学立ち上げから委員会が設置され準備を行ってきた。本年度はその着実な準備の上にたって受審（実地調査含む）を迎えた。その結果、評価報告書（案）で「適合」の判定を受けた（平成28年2月4日付）。今後は3年以内に「改善報告書」を提出すること、および2クール目に向け合理的かつ適正な自己点検評価方法の確立が課題となる。

評価報告書（案）の内、主な未対応事項への取り組みとして、

【基準1】 寄付行為、学則への建学の精神の明記等（運営会議）

【基準2】 入試問題の学内作成、責任所在、入試に関するマニュアル作成等（運営会議）

【基準3】 危機管理マニュアルの作成等（運営会議・法人事務）

【基準4】 なし

【基準A】 協力施設の増加（運営会議・自己点検委員会）などが挙げられた。

JIHではこの自己点検評価は毎年実施するものと規定されている。したがって今後は毎年、学内の自己点検評価（以下の2点）の実施（5月1日時点）を行う予定である。

1 教育研究活動自己点検評価

2 自己点検評価（JIH認証評価のフォーム）

ハラスメント委員会

報告者：境 隆弘

<委員構成>

- ・境 隆弘（委員長）
- ・岩田 篤（副委員長）
- ・辻 郁
- ・大西 環
- ・岩田貴代

<活動内容>

- ・平成 27 年度全新入生（PT・OT・ST1 年生）に対して、ハラスメント講習会を実施。講師：NPO 法人アカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク 専門相談員 杉村直哉氏
- ・ハラスメントの申し出の受付（申し出はゼロ）。
- ・ハラスメント相談員（佐藤睦美、吉田文、岩田貴代、大根茂夫、北川悟、順不同、敬称略）の選出。
- ・近畿リハビリテーション学校協議会 セミナー参加 参加者：境
日時：2015 年 9 月 12 日（土）
場所：森ノ宮医療大学
テーマ「学生のメンタルサポートについて」
講師：滋慶トータルサポートセンター 臨床心理士 川島忍氏
- ・ハラスメント相談担当者研修会参加 参加者：境、大根、岩田（貴）
日時：2016 年 2 月 19 日（月）
場所：大阪市中心公会堂
テーマ：ハラスメント相談の対応と事実認定
講師：メンタルヘルス支援センター 光家圭一氏
- ・実習指導者会議でのハラスメントに関する説明実施（PT・OT・ST 各委員）

公開講座委員会

平成 27 年度も引き続き、年間テーマ「発達障がいとどう向きあうか」の下に、2 回シリーズで公開講座を実施した。

テーマの理由：

- ① 発達障がいは、社会的にみて興味関心が高いテーマの一つである
- ② 一定の参加者が見込め、大学の広報につながる
- ③ 地域の小学校に本学から学生ボランティアを派遣している関係で、発達障がいをテーマにすることで地域連携を強め、地域貢献する機会となる

1. 公開講座開催実績

第 1 回

日 時：平成 27 年 9 月 26 日（土）14：00～15：00

会 場：大阪保健医療大学 1 号館 141 教室

テーマ：「発達障がいのある方とのコミュニケーション～言語聴覚士が考える～」

講 師：大阪保健医療大学言語聴覚専攻科 斎藤典昭（言語聴覚士）

参加費：無料

参加人数：42 名

第 2 回

日 時：平成 27 年 11 月 14 日（土）14：00～15：00

会 場：大阪保健医療大学 1 号館 141 教室

テーマ：「障害のある方の支援者サポート～就労に向けて～」

講 師：大阪保健医療大学作業療法学専攻 平尾 一幸（作業療法士）

大阪リハビリテーション専門学校 丸田 千津（作業療法士）

参加費：無料

参加人数：36 名

2. 委員会開催回数：10 回

第 1 回平成 26 年 4 月 28 日（火）～第 9 回平成 26 年 2 月 23 日（火）

審議事項

- ・ 公開講座の企画
- ・ 公開講座実施までのスケジュール調整
- ・ 会場確保、講師依頼、役割分担等の運営に関すること
- ・ 広報戦略検討と広報の実施（広報用フライヤーの作成・郵送および新聞折り込み、新

聞社への掲載依頼、次年度は近隣の就労継続支援 B 型事業所によるポスティングサービス利用検討)

- 公開講座アンケート作成と結果集計
- 公開講座実施後の反省

以上

図書委員会

平成 27 年度の活動は、「学生が本に興味を持ち、図書館を有効に活用するための工夫」、「経費の削減を行いながらも利用価値の高い図書館にするための選書等の工夫」の 2 点を目標とし、図書館司書の方と協力し下記の 6 つの活動に取り組んだ。

1. 図書館利用方法の周知：新入生図書館ツアー
2. 学生が利用しやすい、利用価値の高い有益な蔵書を増やす：教員・学生からの希望図書の購入
3. 学生の本への興味を喚起、居場所としての図書館、多様な感性を育む図書館：
 - ①図書委員による「おすすめ図書」の紹介
 - ②「選書ツアー」の実施により図書館で読みたい本を増やす
4. 学生の文献検索における利便性を高める：電子ジャーナルおよびインターネット文献検索エンジンの学生利用の拡大
5. 利用しやすい蔵書の管理：雑誌製本
6. 雑誌の保存期間・継続の点検によるスペースの確保：教員の意見を参考に重要性の低い雑誌の保存期間・継続を点検し、スペースを確保する

活動結果：

1. 図書館利用方法の周知：新入生図書館ツアー
理学療法学専攻 平成 27 年 4 月 17 日実施
参加者 68 名、欠席者 1 名（4 グループで実施）
作業療法学専攻 平成 27 年 4 月 17 日実施
参加者 39 名、欠席者 1 名（1 グループで実施）
2. 利用価値の高い有益な蔵書を増やす：教員・学生からの希望図書の購入
 - 1) 教員からの希望図書（学生が読みやすい本や映像教材も含め希望を提出）
 - 6 月 希望図書のリストを各専攻でとりまとめる
 - 7 月 図書委員会で希望図書リスト確認
 - 8 月 再度希望図書を募る
 - 9 月 図書委員会で希望図書を検討
 - 11 月 3 社から相見積をとる、稟議書提出
 - 12 月 購入
 - 2) 学生からの希望図書
学生希望図書アンケートを 5 月に一斉に実施、また随時提出も受け付け、図書委員会で

審議し購入を決定した。

3. 学生の本への興味を喚起

① 図書委員による「おすすめ図書」の紹介

学生が興味を持ちやすい本、授業等にも利用できる本、未来の医療職者として是非読んで欲しい本を図書委員が選び、簡単な推薦文を添えて紹介した。

6月 池ノ上 寛太：リハビリの結果と責任 絶望につぐ絶望、そして再生へ。三輪書店

10月 ヨシタケシンスケ：ぼくのニセモノをつくりには。ブロンズ新社

1月 デイビット・ライト：ダウン症の歴史。明石書店

② 「選書ツアー」の実施

学生から1クラスにつき2名の代表者を募り、教員が書店（ジュンク堂天満橋店）に引率。クラスの希望を考慮し代表者が一人5,000円以内で購入し、図書館の蔵書とする。その後、学生が書いた選書本紹介文を、大学ホームページに掲載。

PT・OT 11/2（月）16：10～17：50 PT・OT 1～3年 12名

ST 11/23（月）16：10～17：50 ST 1, 2年 4名

4. 学生の文献検索における利便性を高める：

学内のWi-Fiを整備に伴い、学生は学内のどこからでもインターネット文献検索エンジン（メディカルオンライン）から無料で文献をダウンロードできるようになった。

5. 利用しやすい蔵書の管理：雑誌製本

- ・雑誌製本の時期を卒業研究に最も影響が少ない8月・9月に実施、特に問題はなかった。

6. 雑誌の保存期間・継続の点検によるスペースの確保

- ・教員の意見を参考に重要性の低い雑誌の保存期間を確認した。今後、保存期間ごとに継続を再検討する予定である。

臨床実習委員会

委員長：井上悟

委員：大根茂夫 足立一 清水大輔 岩田篤 牧之瀬一博 上村美智子 溝畑允康

臨床実習委員会では平成 27（2015）年度に以下の活動を実施した。

1、臨床実習に係る経費削減（前年度比 5%削減目標）。

平成 26 年度と平成 27 年度の臨床実習（謝金、宿泊費）・臨床実習指導者（以下 SV）会議等に係る経費を比較すると、総額で 17%減額となった。学生一人当たり換算すると、3%削減となり当期目標（前年度比 5%削減）は達成できなかった。しかし平成 24 年度からの経費節減累積は、学生一人当たり換算で、計 14%の削減を達成した。

1) 実習施設を可能な限り近隣へ集約し経費節減を図る。

実習地の近畿圏への集約の取り組みを継続実施した。

PT 【 H25⇒58%、H26⇒67.3%、H27⇒75.0%であった。】 7.7%増加

OT 【 H25⇒100%、H27⇒100%であった。】 100%継続維持

ST 【 H25⇒75%、H26⇒78%、H27⇒89.0%であった。】 11.0%増加

2) 関連会議に係る諸費用（日当・交通費など）を節減する。

会議等に掛かる諸経費を全専攻で統一を図り専攻間格差をなくすよう調整した。

3) 自宅・下宿先から実習に臨むことで、宿泊費及び交通費（学生・教員）の負担を節減する。

すべての実習先を近隣地区へ移行するのは困難であるが、学生が自宅（地方出身者含む）や下宿先から実習に臨むことで、学生への金銭的負担及び教員の実習訪問に掛かる経費等、両面から軽減を目指した。ただし近隣地区へ移行したにも関わらず、新たにアパート賃貸借が必須となれば、宿泊費が逆に加算される。

現在契約中のアパート賃貸借業者に関しては、今までマンスリーチケットのみでの対応であったが、少しでも経費を削減するために新たに法人プランも契約し、日割計算が可能になった。ついては、少しでも宿泊費の削減に努めたいが、今年度は手数料がかかるので数年スパンで削減をみていきたい。

2、臨床実習施設確保の安定化

本年度の委託施設数の実績は、PT：239 施設 OT：184 施設 ST：158 施設（平成 28 年 1 月現在申請中含む）であった。特に PT 学専攻で実習地不足が目立った。

- 1) 全実習地情報の共有化：OHSU 全専攻（OCR 含）、福田学園が外部機関に委託している全実習地情報の共有化を図り、データ一覧として集約した。今後とも活用方法を検討する。過去の実績情報も active 情報、inactive 情報に分けて整理・再活用する。
- 2) 新規施設の追加依頼（近畿圏中心）を常時各専攻（特に PT 学専攻）で継続的に行った。
- 3) 新規施設依頼時、PT+OT+ST、同一施設、同時依頼方法も継続努力した。

3、その他、継続課題

- 1) 実習施設の感染制御規定への対応について：感染症の抗体検査とワクチン接種の依頼の中で、B型肝炎のチェックを義務づける施設が増えてきた。特に PT 学専攻、ST 専攻科で、急性期病院からの要請が中心であった。OT 学専攻からの報告はなかった。本年度は施設-学生ごとの個別準備対応としたが、今後増加するようならば大学全体としての対応を検討（健康相談室）する必要がある。
- 2) スーパーバイザー（SV）の育成事業の検討：卒業生を SV に育成し実習地確保の幅を広げるよう努める。（例：校友会と連携し、卒業生の生涯学習のひとつとして臨床実習に関する事業援助を検討する。）

キャリアサポート委員会

委員長：藪中良彦（PT専攻）

委員：清水大輔（副委員長，OT専攻），島雅人（PT専攻），中村靖子（ST専攻科），岩村正子（事務局）

キャリアサポート委員会開催日：2015年4月28日，6月2日，6月23日，7月28日，9月29日，10月27日，11月24日，12月22日，2016年1月26日，2月23日，3月22日 合計11回

キャリアサポート委員会は、学生の就職活動およびキャリア教育の支援を行うことを、活動の主目的としている。キャリアサポート委員会では、2015年度に以下の活動を実施した。

1. 求人情報の広報

届いた求人情報を学内で閲覧できるようにまとめると共に、Web技術によるオンラインの授業サポートシステム「Moodle」に掲載し、臨床実習中に大学に来学できない時でも最終学年の学生が求人情報にアクセスできるようにした。また、就職試験が早期に行われる公務員試験に関する情報は、最終学年の学生全員に電子メールを使用して情報を送付した。

2. 求人依頼施設来校への対応

求人依頼施設の来校があった場合は、主に事務職員が対応して情報収集を行った。また、来校施設から要望があった場合は、各職種の専任教員が対応を行った。

3. 求人状況及び就職内定状況の確認

各専攻及び専攻科の就職担当教員と事務局が連携し、求人状況と就職内定状況の確認を行った。

- 1年間の求人状況は、以下の通りであった。

理学療法専攻：2,946名（60.12倍）

作業療法専攻：3,140名（116.30倍）

言語聴覚専攻科：1,596名（44.33倍）

- 月毎の就職内定状況は、以下の通りであった。

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
PT	1	1	0	6	7	15	6	2	5
OT	0	1	0	1	3	3	8	0	2
ST	1	2	8	1	7	6	3	1	3

4. ベーシックマナー講習会の開催

2015年6月30日（日）午前9時から10時30分に、NPO法人日本サービスマナー協会から3名の講師に来ていただき、理学療法学専攻・作業療法学専攻・言語聴覚専攻科の118名の新入生に対して、病院実習に必要な基本的なマナーを学ぶ「ベーシックマナー講習会」を開催した。8月及び2月に始まる病院実習に向けて、大変有効な講習会であった。

5. 就職準備セミナーの開催

6月19日午前9時から12時10分に理学療法学専攻4年生49名に対して、理学療法学専攻の就職準備セミナーを実施した。模擬面接等、学生は学ぶことが多く、学生に好評なセミナーであった。

7月11日午前9時から12時10分に言語聴覚専攻科2年生39名に対して就職準備セミナーを、NPO法人日本サービスマナー協会にお願いして開催した。学生の満足度が高く、講師からの評価も良かった。

3月7日午前9時から12時10分に理学療法学専攻（65名）と作業療法学専攻（19名）の3年生の学生に対して、NPO法人日本サービスマナー協会講師6名をお招きして、就職準備セミナーを実施した。他のセミナー同様に、学生の満足度が高かった。特に模擬面接の指導が好評であった。今回は、今後の指導の資料として、面接場面において学生をA～Dの4段階で評価した。

6. OT就職説明会開催

大阪保健医療大学と大阪リハビリテーション専門学校共催で、11月21日（土）13：00～16：00にOT就職説明会を実施した。参加施設数は83施設で、大阪保健医療大学学生19名と大阪リハビリテーション専門学校19名が参加した。いろいろな施設の情報を収集することができ、学生に好評であった。

7. 在校生が利用できる外部奨学金制度案内システムの構築

外部奨学金制度の案内が大学事務に届いた場合、各専攻・専攻科で判断をした後に、学生に案内を行うこととなった。また、外部奨学金制度を案内するためのフォーマットを作成した。

8. 就職活動アンケート及び就職内定状況のまとめ

就職が内定した時期に、学生にアンケートをとり、就職活動中の経験や感想をまとめ、来年度以降の就職活動指導の資料となるようまとめた。また、専攻・専攻科ごとに、各月の就職の内定人数を調査し、内定状況を調査した。

FD 委員会

委員長 佐藤睦美

委員 大槻桂右(9月末日まで) 橋本卓也 齋藤典昭 中村友美

FD 委員会では、教員の教育内容の改善と教育力の向上を目的とし、下記の事項を検討し実施した。

(1)学生による授業評価アンケートの実施

前期・後期の最終授業終了後に、オムニバス科目を除き、専任教員と非常勤教員の担当する全科目について、学生による授業評価アンケートを実施した。マークシートは、学生自身の学習への構え・教材の利用・授業の分かりやすさ・教員の意欲等についての 5 段階評価と記述項目で構成されている。自由記載の用紙は、科目担当教員が回収・保管することとした。アンケートの設問内容は 2014 年度と同様とした。

前期は、保健医療学部 59 科目、言語聴覚専攻科 17 科目、計 76 科目、後期は、保健医療学部 39 科目、言語聴覚専攻科 17 科目、計 56 科目に、アンケートを実施した。

回答（マークシート）の周径は外部委託とした。

(2)授業評価アンケートのフィードバック

アンケート結果を各教員に返却し、学生へのフィードバックの提出依頼、回収を行った。本年度よりフィードバックの書式を統一した。フィードバックの内容は Moodle に掲載し、各学生が自由に閲覧できる様にした。

今年度より、教員自身の自己努力項目のアンケート結果で否定的評価（「あまりそう思わない」、「そうは思わない」）が 20%を超える項目があった教員については、学長、副学長が面談を実施することとなったが、該当者はなかった。

(3)FD 講演会について

近年、発達障害により大学生活に支障を来す学生の存在が珍しくなったため、個々の教職員が発達障害を理解し、大学が組織としてサポートをする必要性が生じている。そこで、2015 年 11 月 10 日(火)に西村 優紀美先生（富山大学学生支援センター アクセシビリティ・コミュニケーション支援室長）を講師としてお招きし、「発達障害を有する学生への学習支援について」をテーマに医療系学部に属する学生に対するサポートの実例を交えてご講演をいただいた。参加者数は大学教員 24 名（PT 専攻 9 名、OT 専攻 6 名、専門基礎 3 名、大学院 1 名、ST 専攻科 5 名）、OCR 教員（PT 学科 4 名）、事務局職員 2 名であった。

講演では、発達障害により履修に支障を来していた学生の実際の状況と、介入方法、結果を複数ご紹介いただき、本学の学生に対するサポートの参考となった。しかし介入には

専門的知識と経験が必要で、専任教員だけで対応するのは困難であることも示唆された。

(4)FD 研究会

2015年7月28日(火)に、本学学生相談室の西川日奈子先生をスピーカーに迎え、本学学生の学生相談室の利用状況や相談内容の傾向などをご紹介いただいた。その後、グループワークを行い、本学のセールスポイントとウィークポイントを参加者で出し合い、今後の教育活動に繋げられるようにした。参加者は大学教員23名と、事務職員2名であった、

FD委員会は、今後も外部からの新情報を取り入れながら、各教員が自らの授業を振り返る機会となる企画を検討していく方針である。

保健管理室

保健管理室長 藤岡重和

委員 藪中良彦、清水大輔、藤原佳子、坂倉美紀

保健管理室は、保健管理に関する専門的業務を行い、学生の健康の保持増進をはかることを目的とし（大阪保健医療大学保健管理室規定第二条）、以下の業務を実施した。

- (1) 定期健康診断を実施し、要精密検査、再検査の学生には医療機関を受診するよう指導、必要に応じて保健指導を行った。
- (2) 健康調査票において、既往歴、現病歴（医療機関での治療内容を含む）、アレルギーなど記載事項の確認。
- (3) 各種感染症の抗体検査結果とワクチン接種の確認。
- (4) 健康相談室を週2回開催し、学生の身体的、精神的健康相談及び指導を実施した。
- (5) 体調不良及び救急措置を要する学生対応。
- (6) 基礎疾患（身体疾患、精神疾患）を有する学生の修業に関する助言。
- (7) 学内の衛生環境及び感染症の予防についての指導助言を行った。

藤原看護師は、週2回（火曜日と金曜日）各々5時間2号館保健管理室に勤務。